

# まなびや

探究の宝庫

12月23日～3月24日

## すごろくの世界

### 特別展

あそびはまなび

江戸時代から正月遊びの一つとして家族で親しまれたすごろく。明治5年学制(公布)で新たに小学校教育が始まると、すごろくが学びの一つと

して教育にも用いられるようになりました。また、児童雑誌の付録に採用されるなど、子どもたちがあそびを通して学びを深められるようになり

ました。  
時代の変化とともに子どもたちのあそびも変化していますが、すごろくは、現在でもさまざまな場面で子どもから大人までに親しまれています。今回の特別展では教育に関するすごろくを中心に、家庭で親しまれたすごろくや現代のすごろくなども紹介します。  
▼少年少女小学教科双六 1907(明治40)年  
双六という遊びを通して学びや人生のイメージを持たせ

るための教材。「上がり」は「退場」(卒業の意味)。「読み方」「書き方」「どうぼん」「たいそう」等、理解しやすい言葉で書かれています。  
▼言万哩記念、鉄道競争すごろく 1925(大正14)年



少年少女小学教科双六 1907(明治40)年 (当館蔵)



鉄道競争すごろく1925(大正14)年(当館蔵)



鯖江女師生を中心とする社会変遷双六図(当館蔵)

るための教材。「上がり」は「退場」(卒業の意味)。「読み方」「書き方」「どうぼん」「たいそう」等、理解しやすい言葉で書かれています。  
▼言万哩記念、鉄道競争すごろく 1925(大正14)年

鉄道の営業距離が1万マイルを超えた記念に大阪毎日新聞と東京日日新聞の両社がおこなった「全国鉄道競争」をゲーム化したもので、大阪毎日新聞のお正月の付録としてつけられたものです。  
▼鯖江女子師範・社会変遷双六図 1931(昭和6)年頃  
鯖江女子師範学校で教員が作成した双六掛図「公民科郷土化として」を見ると、女子師範生に対する期待が見えます。卒業後の家庭や勤務校だけにとどまらず、国際社会に至るまでの広い世界での活躍が女子師範生に期待されていたことが、この双六掛図からは読み取れます。